

令和2年度  
一般会計  
決算

教育委員会

一般会計（教育委員会）の決算概要（令和２年度）

（単位：千円）

款・項	予算額 A			支出額 B			翌年度 繰越額 C	不用額 A-B-C
	現年分	繰越分		現年分	繰越分			
教育費	59,369,359	1,648,429	61,017,788	57,357,352	1,327,830	58,685,182	987,392	1,345,214
教育総務費	7,146,939	23,316	7,170,255	6,916,611	21,237	6,937,848	38,059	194,348
小学校費	29,160,041	565,891	29,725,932	28,346,615	430,567	28,777,182	483,574	465,176
中学校費	15,428,357	916,648	16,345,005	14,808,865	753,107	15,561,972	359,538	423,495
高等学校費	1,277,717	0	1,277,717	1,217,358	0	1,217,358	20,621	39,738
幼稚園費	422,243	0	422,243	392,740	0	392,740	0	29,503
専修学校費	186,926	0	186,926	170,215	0	170,215	0	16,711
社会教育費	2,327,430	0	2,327,430	2,245,139	0	2,245,139	30,000	52,291
保健体育費	3,419,706	142,574	3,562,280	3,259,809	122,919	3,382,728	55,600	123,952
災害復旧費	127,560	13,158	140,718	121,471	6,358	127,829	0	12,889
熊本地震災害復旧費	127,560	13,158	140,718	121,471	6,358	127,829	0	12,889
合計	59,496,919	1,661,587	61,158,506	57,478,823	1,334,188	58,813,011	987,392	1,358,103

令和 2 年 度

奨学金貸付事業会計

決 算

教育委員会

## 奨学金貸付事業会計の決算概要（令和2年度）

### 歳入

（単位：千円）

款	項	目	予算額	調定額	収入額	収入未済額
繰入金	一般会計繰入金	一般会計繰入金	0	0	0	0
繰越金	繰越金	繰越金	9,000	9,001	9,001	0
諸収入	貸付金元金収入	奨学金貸付金元金収入	118,100	152,504	121,226	31,278
	雑入	雑入	0	150	150	0
合計			127,100	161,655	130,377	31,278

### 歳出

款	項	目	予算額	支出額	翌年度繰越額	不用額
奨学金貸付事業費	奨学金貸付事業費	奨学金貸付事業費	67,100	62,903	0	4,197
		奨学金貸付事業総務費	60,000	60,000	0	0
合計			127,100	122,903	0	4,197

### 歳入歳出差引額

合計	7,474（収入額－支出額）
----	----------------

令和 2 年 度

決算状況報告書

教育委員会

1 事業の属性

政策名	生涯を通して健やかで、いきいきと暮らせる保健福祉の充実	章・節	3・5
施策名	安心して子どもを産み育てられる環境づくり	(方針)・事業	1・(3)
基本方針	結婚・妊娠・出産・子育てしやすい環境づくり		
主な取組	地域における子育て支援サービス及び地域主体の子育て支援活動の充実		
事業実施所管課(室)名	教育センター	事業コード	35 13

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	子育て支援センターなどを拠点とした子育て環境の整備や育児相談の充実による子育て世帯の不安解消を図ります。										
	子育て支援ネットワークや地域の子育てサークル・子育て支援団体の活動支援・育成を図り、地域との連携協力を推進します。										
実績	○幼稚園における子育て方向上推進事業 ・市立幼稚園(6園)において、未就園児の保護者を対象に子育て相談会、子育て講演会等を開催した。保護者同士で悩みを共有し合い、相談して解消することにより、保護者が主体的に子育てに取り組むことができるようなきっかけづくりを行った(実施回数 28回)。	令和2年度決算額(単位:千円)									
								財源内訳			
		合計額		財		源		金		額	
		145		一般財源						145	
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値			検証値				
			H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度		

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	○子育て相談会、子育て講演会については、保護者や未就園児が参加しやすい午前を実施するなど日時を考慮し、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ9月から実施した。また、園のホームページに年間計画を掲載するとともに、地域にチラシを配布する等の広報に努めた。
取組による成果と2年度に残った課題	○親子でふれあう機会を作ることができ、未就園児の保護者同士の交流も生まれた。また、園のホームページを見て参加したという保護者も増えており、広報によって一定の効果がみられた。コロナ禍により、在園児との交流はできなかったが、親子で安心して遊べる貴重な場の提供になっていると喜びの声も聞かれた。
検証値を踏まえた課題への対応	○未就園児の保護者同士や幼稚園の教職員との交流をさらに深めるような取組を行う。また、子育て相談会や講演会等の開催にあたっては、引き続きホームページ等を活用した広報に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底していく。

1 事業の属性

政策名	生涯を通して健やかで、いきいきと暮らせる保健福祉の充実	章・節	3・5
施策名	安心して子どもを産み育てられる環境づくり	(方針)・事業	1・(4)
基本方針	結婚・妊娠・出産・子育てしやすい環境づくり		
主な取組	保育サービス及び幼児教育の充実		
事業実施所管課(室)名	指導課、健康教育課	事業コード	35 14

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	多様化する保育ニーズに対応するため、保育所・幼稚園などにおける保育サービスの充実を図ります。								
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼・一般管理経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立幼稚園において、教育内容及び学習環境の充実を図るため、燃料光熱水費、施設修繕料、消耗品費等を措置し、円滑な幼稚園運営を行った。</li> </ul> </li> <li>○幼・保健管理運営経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立幼稚園において学校保健安全法に基づき、幼稚園における園児及び職員の健康保持増進を図ることを目的とした健診や、環境衛生管理及び施設環境の整備を行った。</li> </ul> </li> <li>○幼・給食管理経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心な給食を園児に提供するため、害虫駆除、清掃、施設修繕及び器具修理を行った。</li> <li>・R元年10月1日から施行された幼児教育無償化に伴い、限庄幼稚園に対して副食費の補助を行った。</li> </ul> </li> </ul>	令和2年度決算額(単位:千円)							
		財源内訳							
		合計額	財	源	金	額			
		38,730	分担金及び負担金				1,412		
			使用料及び手数料				83		
	国庫支出金				6,151				
	一般財源				31,084				
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	実績値					検証値	
			H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症の予防の一環として、消毒用アルコールを設置し、園児の登園時や外遊びの後、手洗い、うがいとともに手の消毒を行うなど、園児の衛生管理を徹底するとともに、砂場、トイレ等の消毒清掃も行った。</li> <li>○国の制度として幼児教育の無償化が実施されたことに伴い、副食費の免除措置を行う限庄幼稚園に対し、給食費の減収分を補填する補助を引き続き実施した。</li> </ul>
取組による成果と2年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市立幼稚園の衛生管理の一環で手洗い場、足洗い場の修理等を実施した。また、新型コロナウイルスの感染予防対策においては、園児の日常生活における感染防止対策の習慣づけとともに、施設の継続的な消毒も必要である。</li> </ul>
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市立幼稚園の衛生管理について、引き続き、園児の手洗い、うがい等の実施と園内の消毒・清掃などの感染防止対策を行う。</li> </ul>

1 事業の属性

政策名	生涯を通して健やかで、いきいきと暮らせる保健福祉の充実	章・節	3・5
施策名	安心して子どもを産み育てられる環境づくり	(方針)・事業	2・(7)
基本方針	援助を必要とする子どもや子育て家庭への支援		
主な取組	社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭への支援		
事業実施所管課(室)名	総合支援課	事業コード	35   27

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	障がい又は障がいの疑いのある子どもに関する相談、診察、検査、初期の療育などの支援を行います。								
実績	○幼稚園障がい児教育経費（ことばの教室） ・向山幼稚園と碩台幼稚園に設置している「ことばの教室」で発音などことばの課題の改善を図る指導を行った（利用者数 120人）。 ○幼稚園障がい児教育経費（あゆみの教室） ・川尻幼稚園に設置している「あゆみの教室」で、行動面及び情緒面等の指導を行った（利用者数 25人）。	令和2年度決算額(単位:千円)							
		合計額		財源内訳					
		785	一般財源					785	
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	実績値					検証値	
			H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	○遊びを取り入れた個別指導やグループ指導を通して、一人ひとりのことばや行動及び情緒面等の課題に応じた指導や支援を行った。 ○「楽しい」「できた」という成功体験を積み重ね、「やってみよう」という意欲を高める支援を行った。
取組による成果と2年度に残った課題	○一人ひとりのことばや行動及び情緒面等の課題に応じた指導や支援を行ったことで、課題の改善や園等での生活における不安の解消につながった。 ○ことばや行動及び情緒面等の課題のほか、多様化する教育的ニーズに対応する必要がある。 ○「あゆみの教室」で、3月に予定していた引継ぎ会等の移行支援が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できないケースがあった。
検証値を踏まえた課題への対応	○子ども発達支援センター等の関係機関と連携を図りながら、多様化する教育的ニーズに応じた指導や支援を行う。 ○「あゆみの教室」での指導を受けた子どもたちをスムーズな小学校生活につなげるため、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、可能な範囲で移行支援を進めていく。



1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	地域に開かれた魅力的な学校づくり	(方針)・事業	1・(1)
基本方針	主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
主な取組	自ら学びに向かう力を育む教育の推進		
事業実施所管課(室)名	市立図書館、指導課、教育センター、必由館高校、千原台高校、教職員課	事業コード	41 11

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	学校教育全体を通じて子どもの意欲・関心を高めるとともに、主体的に社会の課題を解決することのできる人づくりを推進します。									
	ICTを活用し、児童・生徒一人ひとりの学習状況に沿った支援を行い、学力の向上を図ります。									
実績	それぞれの中学校区に応じた小中一貫教育や幼小中の連携を推進することにより、学力向上と児童生徒指導の充実を図ります。									
	校内研修や派遣研修などを実施するとともに、教員などの資質向上に関する指標を目指した教職員の育成を強化し、教職員の指導力の向上を図ります。									
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員研修経費、授業力向上支援員派遣経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上支援員を増員し、校長等の相談に応じて指導・助言を行った。また、学校訪問に同行し、指導等を行った。</li> </ul> </li> <li>○教育の情報化推進経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校、高等学校、特別支援学校の1人1台学習用端末の整備を行った。また、高等学校の校内LANの整備を行った。</li> <li>・産学官連携により「ICT教育モデルカリキュラム2021年度中学校版」の作成等に取り組んだ。</li> <li>・学識経験者、PTA、小中学校教員を委員とした情報化検討委員会を開催し、教育の情報化について議論した。</li> </ul> </li> <li>○地域教育情報ネットワーク経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援員を17名から19名に増員し、学校訪問を充実させ、効果的な活用支援体制を構築した。</li> <li>・地域教育情報ネットワーク(e-net)の環境整備及び再構築に向けた実施設計に着手した。</li> </ul> </li> </ul>	令和2年度決算額(単位:千円)								
		財源内訳								
		合計額	財	源	金	額				
		3,895,072	国庫支出金			241,861				
			繰越金			11,437				
			諸収入			59,103				
	その他			17,649						
	一般財源			3,565,022						
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値	
			H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度	
	授業支援アプリの使用率(小・中)	%	0	29	-	-	-	16	100	
	学習ドリルアプリの使用率(小・中)	%	0	59	-	-	-	37	80	
	授業力向上支援員の派遣回数(小・中)	回	600	1,088	-	-	-	635	670	

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業力向上支援員を増員するとともに、ニーズに合った研修を実施できるよう研修のプランを充実させた。</li> <li>○タブレット端末の活用については、学校間の差をなくすため、学習用アプリケーションの利用状況データをもとに、指導主事、ICT支援員が支援を実施した。</li> <li>○教職員研修の実施にあたり、集合研修の見直しを行うとともに、タブレット端末を用いたオンライン研修に取り組んだ。</li> </ul>
取組による成果と2年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業力向上支援員を増員したことで、増加する小中学校での派遣要望に対応することができた。</li> <li>○一人一台の学習用端末が整備されたことから、小学校で必修化されたプログラミング教育をはじめ、主体的・対話的で深い学びを実現するために、さらなる活用を促す必要がある。</li> <li>○研修の実施方法を集合研修からオンライン研修へ見直したことにより、教職員が密集する研修はなくなったが、一方で新任教職員同士が直接顔を合わせる機会が減少し、悩みの共有や情報交換等の横のつながりが希薄となった。</li> </ul>
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業力向上支援員については、派遣依頼手続きの簡素化や、校務支援システム等による連絡調整の推進により、学校による支援員の活用を更に推進していく。</li> <li>○教育の情報化について、Web会議システムを活用した、時間や場所の制約が少ない形式での研修の実施等、各学校をサポートする体制の更なる充実を図る。</li> <li>○タブレット端末の活用について、各教科等の状況に応じたICT活用の実践事例の共有や研修を実施するとともに、ICTの活用方法についても継続的にサポートしていく。</li> </ul>

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	地域に開かれた魅力的な学校づくり	(方針)・事業	1・(2)
基本方針	主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
主な取組	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進		
事業実施所管課(室)名	指導課、教育センター、人権教育指導室、健康教育課	事業コード	41 12

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	感動・感謝する心や郷土を愛する心など、豊かに生きるための基盤となる道徳性を育成する教育を充実させます。 人権に関する理解を深め、豊かな人権感覚を育て、自分を大切にするとともに、他の人を大切にする教育を充実させます。 生涯にわたって健康的な生活を送ることができるよう、子どもの基本的な生活習慣を育成するとともに、食育を推進します。 運動の楽しさに触れ、運動習慣の確立につながるような取組を進め、子どもたちの体力の向上を図ります。 産婦人科医などの専門家による講演を学校で実施し、いのちを守る教育を充実させます。
----	--

実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳教育総合支援事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため道徳教育推進研修会を中止し、研修文書を各学校に提示した。</li> </ul> </li> <li>○子どもフォーラム開催経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校9校、中学校1校で子どもフォーラムを開催した。</li> </ul> </li> <li>○学校給食物資共同購入経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消推進のため関係者と連携し、31品目を導入した。</li> </ul> </li> <li>○子どもの健康づくり・体力向上推進経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・肥満度20%以上の4年生児童に小児生活習慣病予防健診を実施した。小学校22校にスポーツ指導者を派遣した。</li> </ul> </li> <li>○いのちを守る教育推進経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・性に関して科学的な知識と正しい判断力等を身につけるため、産婦人科医による講演会を実施した(31校)。</li> </ul> </li> </ul>	令和2年度決算額(単位:千円)	
		合計額	財源内訳
	5,022,244	国庫支出金	214,665
		財産収入	2,726,279
		繰越金	36,264
		その他	34,921
		一般財源	2,010,115

検証指標	単位	基準値		実績値					検証値	
		H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度		
小中学校における道徳教育の校内研修実施校数	校	117	112	-	-	-	134	136		
道徳の授業で学んだことを自分の生活に生かしていると思う子どもの割合(小5、中2)	%	小5 82.9 中2 74.1	小5 85.9 中2 78.9	-	-	-	小5 83.2 中2 74.5	小5 83.6 中2 74.9		
教科等の授業をはじめ全ての教育活動を通じた人権教育の推進がとてよくできている学校の割合	%	-	小 81.5 中 65.1	-	-	-	小 80.4 中 55.8	小 84.7 中 72.8		
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の全国との比較(全国平均を50とした場合の熊本市の値)	小5(男子/女子)	50.6/50.9	-	-	-	-	51.0/51.0	51.5/51.5		
	中2(男子/女子)	49.7/49.2	-	-	-	-	50.0/50.0	50.5/50.5		

※新型コロナウイルス感染症の影響により、全国体力・運動能力、運動習慣等調査は中止となった。

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインを活用した希望参加型の研修を実施した。</li> <li>○子どもの健康づくり・体力向上推進経費では、専門性の高い講師を派遣することで、教職員の指導力向上につなげた。</li> <li>○「いのちの大切さを考える講演会」では、市産婦人科医会と講演内容についてすり合わせを行い、より深く子ども達に伝わる内容を作り上げ、講演会を行った。</li> </ul>
取組による成果と2年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○臨時休校に伴う授業時数の確保のため、道徳教育の校内研修実施校数が前年度より減少している。</li> <li>○子ども達の体力は低下傾向にあると考えられ、今後も継続して体力向上に取り組む必要がある。</li> <li>○「いのちの大切さを考える講演会」では、より深く講演が聞けたと生徒の感想は非常に好評であったが、感想の提出が一部に限られたため、より多くの声を講師に届けることが大切である。</li> </ul>
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳教育の推進については、各学校のリーダーである道徳教育推進教師が校内研修に生かせるよう、道徳教育推進研修会等の内容を工夫する。</li> <li>○子どもフォーラムの開催校が増えるよう、申込方法の簡略化、募集期間の延長、分かりやすい説明資料の準備等を行うほか、他校の取組などの紹介を行う。</li> <li>○新体力テストの分析を行い、子ども達の体力の現状を把握し、運動の意義や価値に対する理解や関心を高めるための取組を行う。</li> </ul>

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	地域に開かれた魅力的な学校づくり	(方針)・事業	1・(3)
基本方針	主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
主な取組	持続可能な社会の実現に貢献する力を育む教育の推進		
事業実施所管課(室)名	学校改革推進課、指導課	事業コード	41   13

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	各学校の活動を持続可能な開発のための教育（ESD）の視点で捉え直し、社会の担い手を育み、学校や地域の更なる活性化を推進します。 社会的・職業的自立に向けた力などを育むために、キャリア教育、自然体験や勤労体験などの体験的学習を充実させます。 必由館高校、千原台高校、総合ビジネス専門学校について、独自性と専門性を高め、質の高い教育を実現するよう、抜本的な改革を行います。									
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心の教育・体験学習推進経費                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは、スポーツ、芸能等で著名な郷土出身者とのふれあいを通して夢を育み、よりよく生きる意欲を高めた（実施校22校）。</li> </ul> </li> <li>○水俣に学ぶ肥後っ子教室経費                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。</li> </ul> </li> <li>○高校改革関連経費                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度に検討委員会から提出された答申の趣旨を踏まえ、市立高等学校・専門学校改革基本計画素案を作成・公表した。</li> <li>・早稲田大学による21世紀型リーダーシップ研修を実施し、在校生や教員に対して、教育改革の一環として、人材育成に取り組んだ。</li> </ul> </li> </ul>	令和2年度決算額(単位:千円)								
		財源内訳								
		合計額	財	源	金	額				
		17,592	国庫支出金			351				
		一般財源		17,241						
検証指標、実績値等の状況	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値	
	「ホンモノにふれ感性を磨く授業づくり」「確かな日本語力を育む日本語大好き」事業実施校数	校	H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度	
			39	22	-	-	-	39	70	

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心の教育・体験学習推進経費では、市教委が外部講師と折衝することで学校の負担軽減を図った。</li> <li>○令和元年度に検討委員会から提出された答申の趣旨を踏まえ、専門性の高い民間事業者の知見も活用しながら、市立高等学校・専門学校改革基本計画素案を作成・公表した。</li> </ul>
取組による成果と2年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心の教育・体験学習推進経費については、新型コロナウイルス感染症対策に加え、授業時数確保の観点から実施を希望する学校が前年度に比べて減少した。</li> <li>○高校・専門学校改革計画素案に掲げる各取組について優先度と必要な準備期間を見極めながら関係者と協議し、令和5年度の開校に向けて準備をしていく必要がある。</li> </ul>
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心の教育・体験学習推進経費については、令和2年度に実施した学校の感染対策事例を周知するなどして、実施を希望する学校の拡大を目指す。</li> </ul>

1 事業の属性

政 策 名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施 策 名	地域に開かれた魅力的な学校づくり	(方針)・事業	2・(4)
基 本 方 針	子ども一人ひとりを大切にする教育の推進		
主 な 取 組	多様な教育的ニーズに対応した支援の拡充		
事業実施所管課(室)名	総合支援課	事業コード	41 24

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	いじめや不登校などの教育に関する相談に対して、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門家との連携を図りながら、課題解決に取り組みます。																																													
	未来を担う人材の育成のため、返還不要の市独自の奨学金制度を設けます。																																													
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スクールソーシャルワーカー (SSW) 配置事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校にSSWを派遣した(対応件数 541ケース)。</li> </ul> </li> <li>○スクールカウンセラー (SC) 配置事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校にSCを配置した(相談件数 10,489件)。</li> </ul> </li> <li>○いじめ・不登校対策経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校に心のサポート相談員を配置した(相談件数6,213件)。</li> <li>・市内の中高生を対象に、SNS (LINE) を活用した悩み相談を実施した(相談件数 1,713件)。</li> </ul> </li> <li>○いじめ防止対策推進法関連経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本市いじめ防止等対策委員会を開催した(開催回数2回)。</li> </ul> </li> <li>○教育相談等経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達、就学、いじめ、不登校等に関する相談を実施した(相談件数 2,451件)。</li> </ul> </li> </ul>	<p>令和2年度決算額(単位:千円)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">合 計 額</th> <th colspan="2">財 源 内 訳</th> </tr> <tr> <th>財 源 金</th> <th>額</th> </tr> <tr> <td>156,587</td> <td>国庫支出金</td> <td>47,957</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般財源</td> <td>108,630</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	合 計 額	財 源 内 訳		財 源 金	額	156,587	国庫支出金	47,957		一般財源	108,630																																	
		合 計 額		財 源 内 訳																																										
財 源 金	額																																													
156,587	国庫支出金	47,957																																												
	一般財源	108,630																																												
検証指標、実績値の状況等	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">検証指標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th>基準値</th> <th colspan="5">実績値</th> <th colspan="2">検証値</th> </tr> <tr> <th>H27年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R元年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育相談室への来所による相談件数</td> <td>件</td> <td>2,773</td> <td>2,451</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3,000</td> <td>3,100</td> </tr> <tr> <td>震災に伴うカウンセリングが必要な児童生徒数(小・中)</td> <td>人</td> <td>-</td> <td>171</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>100</td> <td>減少</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値		H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度	教育相談室への来所による相談件数	件	2,773	2,451	-	-	-	3,000	3,100	震災に伴うカウンセリングが必要な児童生徒数(小・中)	人	-	171	-	-	-	100	減少										
検証指標	単位			基準値	実績値					検証値																																				
		H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度																																						
教育相談室への来所による相談件数	件	2,773	2,451	-	-	-	3,000	3,100																																						
震災に伴うカウンセリングが必要な児童生徒数(小・中)	人	-	171	-	-	-	100	減少																																						

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不登校対策を推進する中学校区(2校区)に対し、SC、SSW、不登校対策サポーターを重点的に配置し、学校と専門家が連携して不登校対策を実施した。</li> <li>○SCを全中学校区(42校区)に配置することで、全小学校にも対応できる体制を整えた。</li> <li>○熊本市いじめ防止等対策委員会では、学校現場の実情を踏まえた具体的な対応や対策を審議した。</li> <li>○事前に学校にて「教育相談申込書」を作成することで、相談待機日数の短縮を図った。</li> </ul>
取組による成果と2年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震に伴う心のケアのため、カウンセリングが必要な全ての児童生徒が相談できる体制を整えた。地震で不安を抱える児童生徒に対し、継続して、適切に対応していく必要がある。</li> <li>○教育相談について、学校に教育相談申込書を事前に提出してもらうことで、新規相談者の待機日数を短縮することができた。</li> <li>○不登校対策を推進する中学校区においては、不登校が改善・解消される等の成果が見られた。今後も不登校傾向にある児童生徒への早期対応を更に推進する必要がある。</li> </ul>
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震に伴うカウンセリングが必要な児童生徒を的確に把握し、今後も適切にSCを配置する。</li> <li>○医師や臨床心理士、言語聴覚士による専門相談と連携し、適切な教育相談を実施する。</li> <li>○各学校での相談の活性化と支援の向上を図るとともに適切な機関につなげるために相談の仕組みを整える。</li> <li>○教育相談においては、学校との連携を深め相談内容の把握に努める。また、ホームページ等での相談前に準備できるもの(申込書等)の周知を図り、継続して相談待機日数の短縮に努める。</li> </ul>

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	地域に開かれた魅力的な学校づくり	(方針)・事業	2・(5)
基本方針	子ども一人ひとりを大切にする教育の推進		
主な取組	特別支援教育の推進		
事業実施所管課(室)名	学校施設課、総合支援課、健康教育課	事業コード	41 25

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	特別な教育的支援を要する子どもたちに適切な支援を行うため、教職員の専門性の向上や個別の指導計画の作成・活用などを通して、支援体制の充実を図ります。								
	本市における特別支援教育を総合的に推進するため、特別支援学校の拠点機能を充実させます。								
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○笑顔いきいき特別支援教育推進事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックごとの研修会や特別支援教育コーディネーター等の研修会を開催するとともに、校内研修会等に、専門家や巡回相談員を派遣した(派遣回数 183回)。</li> </ul> </li> <li>○小・中特別支援教室改修経費                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の特別支援教室開設に伴い必要となる教育環境を整備するため、教室等の改修を行った。</li> </ul> </li> </ul>	令和2年度決算額(単位:千円)							
		財源内訳							
		合計額	財	源	金	額			
		110,442	国庫支出金					25,933	
	一般財源					84,509			
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	実績値					検証値	
			H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度
	特別支援教育にかかる校内研修会の開催回数(幼・小・中・高)	回	550	400	-	-	-	560	570

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	○特別支援教育に係る校内研修会やブロック研修会における専門家等の積極的な活用を学校に奨励した。また、特別支援学級等に在籍する児童生徒の進学時における引継ぎを適切に行うため、各児童生徒の「移行支援シート」を作成し、保護者や学校に周知するなど、活用を促進した。
取組による成果と2年度に残った課題	○校内研修会やブロック研修会に専門家等を派遣することで、特別支援教育に関し、各学校や地域が抱える課題に対し、実態に応じた具体的な助言や支援ができた。 ○特別支援教育の対象となる子どもは増加傾向にあることから、教職員の専門性の向上、子どもの実態に応じた適切な学びの場の確保等、支援体制の充実を図る必要がある。
検証値を踏まえた課題への対応	○特別支援教育に係る校内研修については、全ての学校・園において、年に1回以上開催している状況であり、一定の回数は確保できているが、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う影響があった。今後も、特別支援教育について、教職員の専門性の向上や支援体制の充実を図るため感染防止対策を徹底したうえで各学校・園の状況に応じた校内研修等を実施する。 ○2つの特別支援学校の施設や人的資源を活かし、市立の幼小中高校の教職員を対象とした特別支援教育に関する研修を提供する。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	地域に開かれた魅力的な学校づくり	(方針)・事業	3・(6)
基本方針	最適な教育環境の整備		
主な取組	地域社会と連携した教育環境の整備		
事業実施所管課(室)名	指導課	事業コード	41 36

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	子どもたちが豊かな人間関係を築き、最適な環境で学習できるよう、学校規模の適正化や校区の見直し・弾力化を進めます。 地域の実態に応じたより良い学校運営ができるよう、学校支援ボランティア制度などの活用を通して、家庭や地域社会と連携した学校づくりを進めます。 家庭や地域との連携による授業や体験活動、学校行事などを行い、開かれた学校づくりを進めます。								
実績	○学校・地域連携推進事業 ・地域人材を学校支援ボランティアとして活用することで、特色ある教育活動と地域に開かれた学校づくりを推進した。 ・学校評議員が校(園)長の求めに応じて助言をすることで、校(園)長は地域の意見を把握し、学校運営に反映することができた (学校評議員数 640人(小学校416人、中学校174人、幼稚園26人、高等学校等14人、特別支援学校10人))。	令和2年度決算額(単位:千円)							
		財源内訳							
		合計額	財	源	金	額			
		36,128	国庫支出金			7,065			
		一般財源			29,063				
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値			検証値		
			H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度 R5年度	
	小中学校の学校支援ボランティアにおける延べ活動者数	人	39,437	20,324	-	-	-	42,000 45,000	

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	○より効果的・効率的な学校支援ボランティア体制の検討を進めている。令和2年度は、これまでの制度を活用してきた慶徳小学校等の5校をモデル校とし、一部のボランティアにコーディネーター(学校とボランティアの間の連絡調整役)としての活動を依頼した。 ○学校評議員が適切な助言を行えるよう、資料を配布し、本市の教育に関する施策等の周知を図った。
取組による成果と2年度に残った課題	○学校支援ボランティアについては、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの活動が制限されたため、コーディネーター配置による成果の検証が十分にできなかった。
検証値を踏まえた課題への対応	○学校支援ボランティアについては、新型コロナウイルス感染症の影響や各校区、地域の実態を踏まえ、より効果的・効率的な支援体制の整備を進める。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	地域に開かれた魅力的な学校づくり	(方針)・事業	3・(7)
基本方針	最適な教育環境の整備		
主な取組	働き方改革の推進		
事業実施所管課(室)名	教育政策課、指導課、教育センター、教職員課、総合支援課、健康教育課	事業コード	41 37

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	<p>教員の働き方改革と学校を取り巻く様々な課題解決に取り組み、質の高い人材の確保・育成を進めるとともに、教員が子どもと向き合う時間を拡充します。</p> <p>学校におけるマネジメント力を強化するための新任管理職を中心とした研修プログラムや、校務支援の充実を図るなど、効果的・効率的な学校運営を推進します。</p>									
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校教育コンシェルジュ設置経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育に関するあらゆる相談に対し、学校教育コンシェルジュ(4名)を配置した(対応件数 939件)。</li> </ul> </li> <li>○学級支援員派遣経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動に支援を要する学校(112校)に学級支援員を、医療的ケアの必要な児童が在籍する学校(13校)に看護師を配置した。</li> </ul> </li> <li>○教職員研修経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のキャリアステージに応じた資質や指導力の向上を図るため、経年者研修を実施した。</li> <li>・管理職を対象に、学校改革等をテーマに研修を実施した。</li> <li>・採用4年目から15年目までの教員を対象に指導力向上を図る、教師塾「きらり」オンラインを開催した(開催回数8回)。</li> </ul> </li> <li>○給食費公会計化等関連経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食費の管理を行政が行うことで、学校現場の負担軽減を図った。</li> </ul> </li> </ul>	令和2年度決算額(単位:千円)								
		合計額		財源内訳						
		449,874	国庫支出金				62,535			
			一般財源				387,339			
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	実績値					検証値		
			H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度	
	学校教育コンシェルジュの対応件数	件	-	939	-	-	-	1,050	1,250	
	正規の勤務時間外の在校時間が1か月80時間を超える教職員数	人	-	285	-	-	-	497	0	

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級支援員を学校規模に応じて複数配置し、効果的な配置となるよう努めた。</li> <li>○教職員研修経費では、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくり研修を実施し、対話的でアウトプット中心の研修を実施した。オンライン研修ではタブレットのアプリを使用し、スキルの向上を図った。また管理職研修では、学校経営力の向上を図るため、学校改革や組織マネジメント等に関する研修を実施した。</li> </ul>
取組による成果と2年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級支援員は支援を要する学校へ適切に配置していく必要があるが、学校の状況が多岐に渡り、人員増員の要望が数多くあった。</li> <li>○教職員研修については、教職員の負担軽減だけでなく、経験年数や研修内容等により、オンラインによる研修と集合による研修を効果的に組み合わせながら工夫していく必要がある。</li> </ul>
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級支援員については、学校の実態や児童生徒の状況に応じて配置を行ったが、更に適切な配置となるよう、積極的に学校訪問等を行い、学校や児童生徒の状況を把握していく。</li> <li>○教職員研修では、内容の精選を更に行うとともに、「教員の資質向上に関する指標」を活用した研修で教員の質の向上を図る。管理職研修では、市内の小中学校から講師を選定し、また教師塾「きらり」では、選択制による研修を設定し、より受講しやすい体制を整える。</li> </ul>

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	地域に開かれた魅力的な学校づくり	(方針)・事業	3・(8)
基本方針	最適な教育環境の整備		
主な取組	安全・安心な学校づくりの推進		
事業実施所管課(室)名	教育政策課、学校施設課、指導課、必由館高校、千原台高校、健康教育課	事業コード	41 38

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	校舎などの老朽化対策、施設・設備の改善を図ることにより、安全で良好な学習環境を整備します。														
	学校内外における子どもたちの安全確保を図るため、地域社会や関係機関と連携して、子どもたちが安全に安心して過ごせる環境整備を進めるとともに、防災教育などの安全教育を充実させます。														
実績	児童・生徒が安心して学校生活が送れるよう、体罰や暴言などの不適切な指導の防止を徹底します。														
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○空調設備整備経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の特別教室に空調設備設置工事を行った。</li> </ul> </li> <li>○義務教育施設整備事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数増加に伴う校舎増築工事（田迎南小、隈庄小）、老朽化した体育館の改築工事（二岡中、城西中）を行った。</li> </ul> </li> <li>○学校施設等災害復旧経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本地震で被災した学校施設等の復旧工事等を行った。</li> </ul> </li> <li>○施設設備整備経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食室及び共同調理場の熱中症対策として、小学校給食室の前室（作業準備室）への空調設備の整備を行ったほか、感染症対策として手洗いやトイレの設備改修を行った。</li> </ul> </li> <li>○学校安全推進経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員、PTA、道路管理者及び警察と実施した合同安全点検において、18校の危険箇所を抽出し対策に取り組んだ。</li> <li>・学校（園）に設置しているAEDの維持管理を行った。</li> <li>・消防局と連携しVRを活用した体験型防災学習を実施した（小学校 6校）。</li> </ul> </li> </ul>	<p>令和2年度決算額(単位:千円)</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">財源内訳</th> </tr> <tr> <th>合計額</th> <th>財源金額</th> </tr> <tr> <td>6,341,382</td> <td>国庫支出金 871,305</td> </tr> <tr> <td></td> <td>繰越金 158,956</td> </tr> <tr> <td></td> <td>市債 1,127,600</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他 156,396</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般財源 4,027,125</td> </tr> </table>	財源内訳		合計額	財源金額	6,341,382	国庫支出金 871,305		繰越金 158,956		市債 1,127,600		その他 156,396	
財源内訳															
合計額	財源金額														
6,341,382	国庫支出金 871,305														
	繰越金 158,956														
	市債 1,127,600														
	その他 156,396														
	一般財源 4,027,125														
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値						
			H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度						
	トイレ洋式化整備計画（10か年計画）の進捗率	%	-	38	-	-	-	38	45						
地震訓練の実施校数（幼・小・中・高）	校	139	144	-	-	-	143	145							

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な学習環境を確保するため、学校の要望も踏まえながら、施設の整備や維持補修等に計画的に取り組んだ。</li> <li>○学校敷地内で工事を行う際は、夏季休業期間を利用するなど、教育活動に支障が生じないよう、学校と連携し、スケジュール等の工夫を行った。</li> <li>○給食調理員への熱中症対策として、調理室の前室（作業準備室）に空調設備を導入した。また、給食室の大規模改修工事にあたり、空調設備の整備内容を含めた設計を行った。</li> <li>○新型コロナウイルス感染対策に配慮しながら、消防局と連携した体験型防災学習を行った。</li> </ul>
取組による成果と2年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校施設については、老朽化が進行しているものが多く、計画的な対応が必要である。</li> <li>○給食調理員への熱中症対策として、調理室の前室（作業準備室）へ空調設備設置を行ったが、引き続き、調理室内の更なる環境改善が必要である。</li> <li>○コロナ禍においても防災教育の充実を図るため、体験型のほかに、遠隔での実施や市広域防災センターを活用した防災教育が行えるよう消防局と協議し、実施している。</li> </ul>
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校施設の老朽化対策については、学校施設長寿命化計画に沿って、長期的な視点から計画的に長寿命化改良や予防保全を行う。</li> <li>○地震訓練の実施については、引き続き消防局と連携しながら全校で実施していく。</li> </ul>



1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・2
施策名	学びと活動の循環による人づくり	(方針)・事業	1・(2)
基本方針	多彩な学習機会の提供と創造		
主な取組	生涯学習関連施設の機能充実		
事業実施所管課(室)名	市立図書館、熊本博物館	事業コード	42 12

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	<p>図書資料の充実・サービスの向上などに取り組み、読書しやすい環境の整備を進めます。また、読書活動啓発の取組を進め、読書活動の振興を推進します。</p> <p>博物館の運営や活動の充実と向上を図り、社会教育施設としての機能を高めます。また、特別展・企画展の開催や、学校教育、関連施設との連携により魅力ある博物館をつくります。</p>								
実績	<p>○図書館管理運営経費（政策）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各図書館や公民館図書室における機能や利用傾向等を考慮しながら、選書購入を一元的に行い、図書資料の充実を図った。（本市の蔵書数 1,600,617冊）</li> </ul> <p>○図書館管理運営経費（経常）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの成長に応じた良書を紹介したリーフレット等の配付や学校に対する掲載図書の設定貸出を実施した。</li> </ul> <p>○子ども科学・ものづくり経費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然科学や身近な事象に対する興味・関心を高める目的で熊本博物館（実験・工作室、講堂）及び塚原歴史民俗資料館において、子ども科学・ものづくり教室を開催した（開催回数23回、延べ参加者数 693名）。</li> </ul> <p>○特別展等開催経費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別展示室（3室）において、常設展示以外の収蔵資料を公開する企画展及び共催展等を開催し、人文系、自然系の様々な資料を展示した（2回の特別展は感染症防止対策のため中止。企画展7回、共催展2回、パネル巡回展1回）。</li> </ul>	令和2年度決算額(単位:千円)							
		財源内訳							
		合計額	財	源	金	額			
		661,729	使用料及び手数料			10,007			
			国庫支出金			4,423			
	市債			101,800					
	その他			1,406					
	一般財源			544,093					
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値
			H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度
	図書館、公民館図書室等からの貸出冊数	万冊	325	230	-	-	-	307	330
	リニューアル後の熊本博物館の入場者数	万人	-	4.1	-	-	-	8.6	12

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<p>○市立小中学校の学校用図書館カードで、電子図書館の利用ができるようサービスを拡充した。また市の図書搬送先に県立図書館を加え、県立図書館蔵書の貸出・返却サービスを開始した。</p> <p>○子ども科学・ものづくり教室は、デジタルコンテンツの配信や関連する団体との連携も可能な限り継続し、内容の充実を図ったほか、公民館等からの派遣依頼を受け、出前講座を行った。</p> <p>○企画展及び共催展等、諸事業の開催にあたっては、各種広報媒体（HP、SNS等）を活用し、周知に努めた。</p>
取組による成果と2年度に残った課題	<p>○学校用図書館カードで電子図書館が利用できるようサービスを拡充したことで、貸出数が急増し、小中学生の読書活動の推進に寄与した。</p> <p>○子ども科学・ものづくり教室では、参加定数を減らして実施したが、HP等での関連コンテンツ発信により科学実験や科学工作の楽しさを伝えることができた。事例調査や内容の工夫及び関連諸団体との連携を一層深め、協働的な活動を展開していく必要がある。</p> <p>○来館者満足度を高める魅力的な講座及び各種展示会等の企画・開催が求められる。</p>
検証値を踏まえた課題への対応	<p>○多くの市民に生涯学習の機会を提供するため、人文・自然科学各分野の講座等を工夫・拡充し、子ども科学ものづくり教室をはじめとする教育支援活動を推進・強化していく。</p> <p>○特別展、企画展、共催展等については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら開催し、来館者の満足度や集客力の向上を図るほか、来館出来ない状況でも追体験や疑似的な鑑賞体験等が可能となるような情報コンテンツの発信にも引き続き取り組む。</p>

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・2
施策名	学びと活動の循環による人づくり	(方針)・事業	1・(3)
基本方針	多彩な学習機会の提供と創造		
主な取組	青少年の健全育成		
事業実施所管課(室)名	青少年教育課	事業コード	42 13

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	<p>「家庭教育地域リーダー」などの人材の育成と活躍できる場の提供に取り組むとともに、関係機関・団体などとの連携により、家庭教育プログラムの充実を図ります。</p> <p>児童が放課後などを安全・安心に過ごすため、放課後児童クラブの充実を図るとともに、子どもの実情に応じた学習拠点のあり方を検討します。</p>								
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭教育推進経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児や小中学生の保護者を対象として、家庭教育セミナーを開催した(開催回数5回(うちオンライン2回)、参加者数324名(うちオンライン26名))。</li> <li>・地域における家庭教育力向上に資するため、家庭教育地域リーダーステップアップ研修の動画配信を開始した。</li> </ul> </li> <li>○児童育成クラブ管理運営経費(政策)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後や長期休業期間を安全に過ごせるように児童育成クラブの管理運営及び民間補助を行った(児童育成クラブ設置校数92校区、入会児童数 6,738名)。</li> </ul> </li> <li>○児童育成クラブ施設整備経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・入会児童数の増加等を踏まえ、児童育成クラブの施設整備を行った(9箇所(プレハブ1箇所、教室共用8箇所))。</li> </ul> </li> <li>○金峰山少年自然の家関連経費                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・金峰山少年自然の家の再建に向けて、新施設整備基本計画(素案)を作成した。</li> </ul> </li> </ul>	令和2年度決算額(単位:千円)							
		財源内訳							
		合計額	財	源	金	額			
		1,036,333	国庫支出金			388,172			
			県支出金			268,228			
	分担金及び負担金			183,158					
	市債			3,200					
	一般財源			193,575					
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値			検証値		
			H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R元年度	R5年度

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭教育について、研修の内容を動画配信し、家庭教育地域リーダーのスキルアップを図った。また、家庭教育セミナーの開催について、教育情報誌withyouを通して幅広く広報した。</li> <li>○児童数の増加に伴い狭隘になった施設的环境を改善するため、学校施設の利活用やプレハブ建設による分離増設等を行った。</li> <li>○金峰山少年自然の家再建に向けて、児童・生徒の保護者を対象にアンケートの実施や民間の意向調査等を行った。</li> </ul>
取組による成果と2年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭教育地域リーダーについては、インターネットやSNSへの対応など、ファシリテーターとしてのスキルアップを図る必要がある。</li> <li>○児童育成クラブの4年生以上の受入れについては、直営80クラブのうち12クラブで実施しているが、拡大にあたっては、面積基準や支援員数の配置基準等をクリアすることが課題となっている。</li> <li>○金峰山少年自然の家の再建に向けて、新施設整備基本計画を踏まえて、特定事業の選定、実施方針及び要求水準書等を策定する必要がある。</li> </ul>
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭教育地域リーダーのスキルアップに向け、インターネットやSNSに関する課題に対応したステップアップ研修を開催する。その際リーダー同士の交流を行い連携・協力できる関係づくりを図る。</li> <li>○児童育成クラブの4年生以上の受入れの拡大については、今後もニーズ調査を実施し、受入れ実施済みクラブでの検証を踏まえて検討する。</li> <li>○金峰山少年自然の家整備運営審議会を設置して、施設再建に向けた整備運営方針等を決定する。</li> </ul>